

アメリカのイラク攻撃に断固抗議する（声明）

1) アメリカは、3月20日、ついにイラク攻撃を開始した。「査察の継続・強化で平和的解決を！」と願う世界の世論を踏みにじり、国際法と国連決議も無視してイラクへの攻撃を開始した米英の悪魔的行為に対し、私たちは満身の怒りを込めて抗議する。また、アメリカに追従し、日本国民の「平和的解決を！」の切なる叫びには一切耳を閉ざし、ブッシュ米大統領の無法で野蛮なこの戦争行為を盲目的に支持する小泉内閣とその与党にも、断固として抗議するものである。

イラク国民の命もアメリカ国民の命も、命の重みに違いはない。フセイン政権を倒すために、多くの罪のない人々の命を奪い、傷つけ、国土を破壊し、悲惨な結果をもたらす戦争を仕掛けていいはずがない。私たちは、戦争を放棄した憲法九条を持つ国の国民として、また、なによりも命と人権を大切にすることを日々携わっている福祉労働者として、この無法な戦争行為を絶対に許すわけにはいかない。

2) 国連査察団は、国連安保理において、「イラクの大量破壊兵器の廃棄のために査察は有効であり、まだ十分とは言えないが着実に成果を上げている」「数ヶ月あれば、目的を達成できる」と報告し、仏・独・露・中をはじめ、多くの国が「査察の継続による平和解決」を主張した。ところが、米・ブッシュ政権は、「武力攻撃」への支持が得られないとなると、「外交努力の道は絶たれた」、「新たな決議も必要ない」と一方的に宣言して開始したのがこの戦争である。その「論理」の中にあるのは、圧倒的な軍事力を背景としたまさに無法な脅迫者・侵略者の姿であり、戦争を避けるために、国際協調の立場に立って努力しようとする姿勢のかけらもない。ブッシュ大統領が「戦争中毒者」と評される所以である。

3) 小泉内閣と与党三党が、「米国支持が国益にかなう」とし、この無法で、野蛮な戦争の支持を表明した責任は重大である。

小泉首相は、「国際協調」という言葉を多用するが、首相の言う「国際協調」とはいったい何を指しているのか。日本の世論はもとより、世界の多くの国と人民が「NO WAR ON IRAQ」「DON'T ATTACK IRAQ」の声をあげ、平和解決を求めていることは「国際協調」の対象とはならないのか。この国際世論に背を向け米・ブッシュ大統領との「協調」によるイラク攻撃を支持することは、「平和」を求める世界の人民への明確な挑戦であり、それこそ「国際協調」を損なうものに他ならない。

4) 戦争開始からすでに2日が過ぎた。攻撃は本格化し、米軍のミサイルや空爆による精密誘導爆弾が、イラクの国民の生活と命を一方的に奪っている。多くの人を殺し、傷つけ、街を破壊している。こんな殺戮行為は1日でも早く終わらせなければならない。

私たちは、アメリカのイラク攻撃に断固として抗議するとともに、直ちに戦争を中止することを要求する。私たちは、小泉内閣と国会が、盲目的なアメリカ支持を止め、米英の軍事攻撃の即時中止を求めるよう強く要求する。

すべての組合員が、直ちにブッシュ米大統領と小泉内閣に抗議の声を集中するとともに、戦争反対の行動をおこすよう呼びかけるものである。

2003年3月22日

全国福祉保育労働組合